

## 世界平和にするための一歩

物部小学校六年 塩塚 心々奈

八月六日午前八時十五分、たった一発の原子爆弾によって広島  
街から先ほどまであふれていた笑顔や笑い声が一しゅんにして消え  
さり、さけび声やうめき声に変わってしまった。この一発によりた  
くさんの人が傷ついたり亡くなったり生きのびられた人も放射線や  
後遺症によって一生苦しめられることになった。

私は広島での平和学習で戦争のおそろしさを学んだ。一番心に残っ  
たことは何の罪もない人々が戦争によって体だけでなく精神面も傷  
つけられていたということだ。とても納得がなかった。また平  
和記念公園へ行ったり平和記念資料館へ行ったりすると自分がまる  
で戦争体験したかのような気持ちになり、胸がしめつけられたよう  
だった。実際これが目の前で行われたら・・・考えるだけで怖くな  
った。でもこの光景・体験をしても、力強く生きられていた方がい  
ると知ってすごいと思った。私がもしこんな体験をしたら悲しくな  
って、前を見られず生きられないと思う。しかし当時の人は子供で  
も「何とか生きよう」と思い働いて家族を養おうと必死だった。こ  
の行動を見て強く心が打たれた。私もあきらめかけそうになったと  
き思い出してこの子たちの分までがんばろうと思った。戦争はとて  
も頭では考えられないようなことがこの世界で行われていたという

ことだ。今このしゅん間も世界のどこかで、あのとても恐ろしい光  
景が広がっている。そのせいで誰かを傷つけているのだ。今自分が  
世界にこの光景を二度と広げないように、世界平和にするために、  
できることを真剣に考えていかなければいけないと強く思った。

日本は世界で唯一の被爆国だ。もう二度と世界にこの悲さんな事  
態を招いてはいけない。この被爆の悲さんさを世界に伝えていくの  
が私たち日本人の役目なのだと感じた。今すぐにこの世界中にある  
戦争を止めることはできない。しかし新たな戦争をおこさないよう  
にしてあの悲さんな出来事を二度とくり返さないことはできる。他  
にも募金活動や平和式典に参加・平和ポスターを書くなど地道なこ  
とから世界平和への道は切り開かれる。小さな一歩だが、やがてそ  
れは地球を変えられるほどの大きな一歩になるはずだ。私は二度と  
戦争が起こらないように今まで戦争体験者の人たちが守り、伝えて  
くれた事や物そして、

「平和な世界になるように。」

という思いを引きついで未来に伝えていきたいと思った。また戦争  
は自由もうばっていく。私は今回で、今ある当たり前のすごさに気  
がついた。今ある本当は当たり前じゃない当たり前に毎日感謝をし  
ながら小さな「世界平和にするための一歩」をふみ出していきたい  
と思った。